



天井川跡地改修計画

- 残存インフラの再編による都市の機能強化 -

CONTENTS

「リノベーションアイデアコンペ 2015」提出案

設計概要	01
デザインコンセプト	02
配置・断面計画	03
配置・断面計画	04
プロトタイプ詳細	05
プロトタイプ断面	06
コンペ概要・賞状	07

「未来シティ研究所」放送内容

放送概要・保育園部分	08
放送部分説明・野菜直売所部分	09

天井川跡地改修計画

ー残存インフラの再編による都市の機能強化ー

「リノベーションアイデアコンペ 2015」 出展

視点特別賞 受賞

コンペテーマ「フロム・ローカル」

出展年：2015 年

用途：複合施設

本提案は、リノベーションによる地域資源の発掘をテーマとしたコンペ（リノベーションアイデアコンペ 2015）への出展作品です。当コンペでは、一次審査（書類審査）通過後、2次審査として公開プレゼンテーションを行い、視点特別賞を受賞しました。その際、現実的な有効性や「リノベーション」という言葉を拡大解釈し、残存する土木構造物を含む河川跡をリノベーション対象として選定した妙、近似する様々な敷地条件に対しても展開可能な汎用性の高さを特に評価されました。

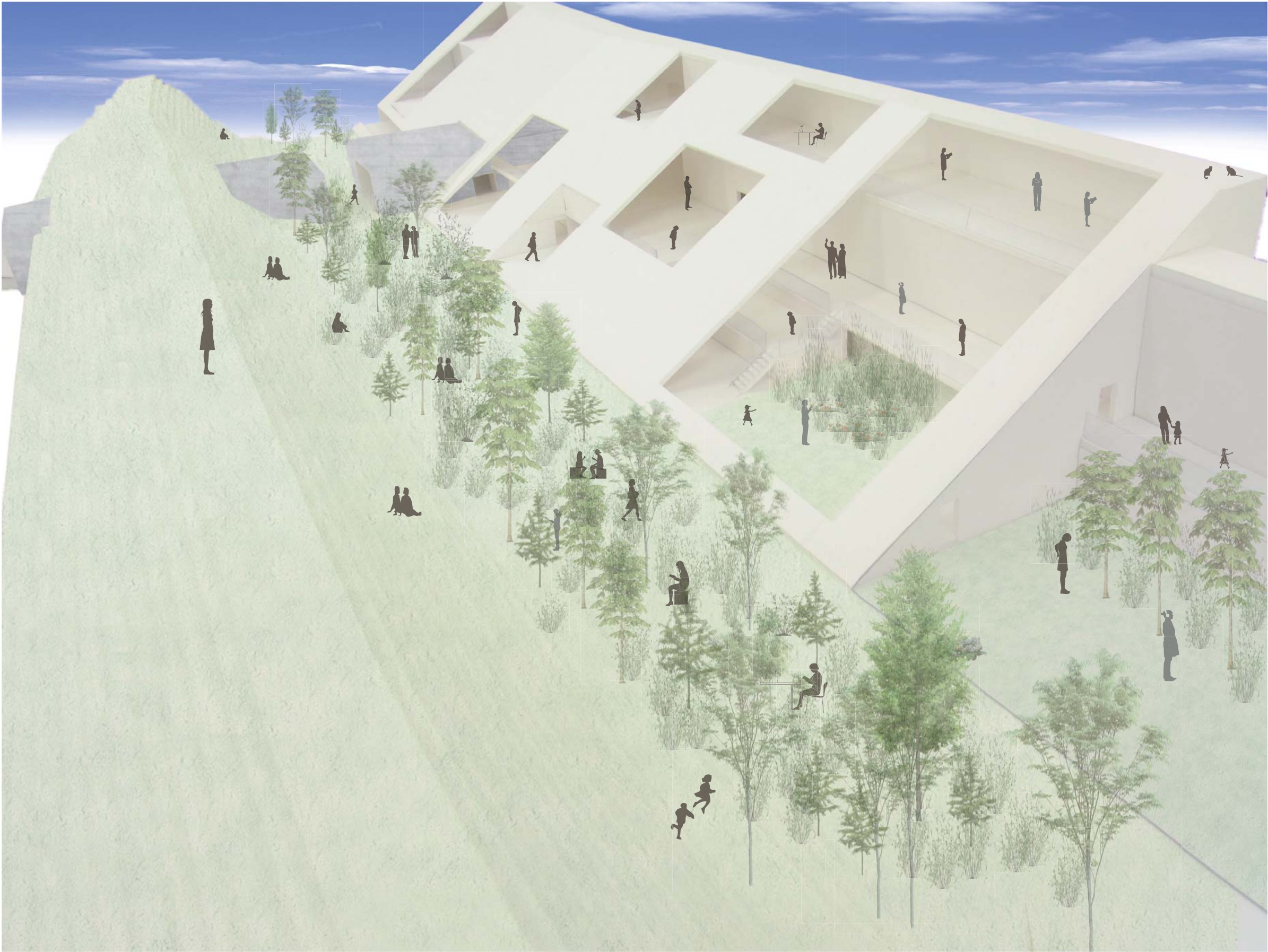
リノベーション対象は、滋賀県草津市に位置し、かつて世界的に著名な天井川であった旧草津川です。この旧草津川は、度重なる水害の後、治水の目的で、新しい通水路（現草津川）に通水し、廃川となりました。現在は約7km に及び市街地を南北に分断する、広大な未利用残存インフラとして存在しています。

自然及び人為作用両方の相乗効果によって形成されたこの大きな天井川跡地は、歴史的・文化的価値を有していると言えます。さらに、堤防外側斜面が、隣家の花壇や耕作地として利用されていたり、斜面に堤防上部の道路へとつながる直接のアクセス路や小屋を設置したり、旧川床部分が広場として様々なアクティビティに利用されている等、各々の市民が、この天井川跡地をオープンスペースとして独自に使いこなしている様が見受けられます。

歴史的・文化的価値を有するとともに、市民の生活と独自の形で交わるこの天井川跡地を後世に残すとともに、市内の様々なエリアつらぬき、都市機能に影響を与え得るこの広大な未利用地を有効活用することを目的として、本構想に着手しました。

市街地を東西に横断する高い堤防により形成される空間を生かしながら、堤防内に屋外植物園や緑地帯、公園、広場といった機能を配置し、市街地の中に広大に伸びる、憩いとアクティビティの場を作ります。そして、隣接建物や各エリアの特徴に合わせた用途の建物を分散配置し、堤防内空間の充実化とともに、堤防外の市街地との関係性を作り、相互作用を促します。

これらのことにより、草津市をまたぐこの天井川跡地に文化や生活の基点としての新たな機能を付加し、都市全体の機能強化を図ります。そして、市民の生活と密接に交わる文化遺産としての新たな役割と価値を与えることで、この天井川跡地を後世に残します。



リノベーション対象・背景

■対象

リノベーション対象は、滋賀県草津市に位置する旧草津川です。この旧草津川は、かつて世界的に著名だった天井川であり、現在は廃川となっている天井川跡地です。かつて流水があった頃には、度重なる水害をもたらしており、治水の目的で、平成14年に新しい草津川放水路に通水が始まり、旧草津川は廃川となりました。現在、市街地を南北に分断する広大な河川跡が堤防とともに残り残されており、その旧川床は、市街地で平地より5～6m、堤防までで9～11mの高低差を有しています。

■背景

自然および人為作用両方の相乗効果によって形成されたこの大きな天井川跡は、草津市の歴史の担い手として、歴史的・文化的価値を有しています。そして、東海道沿いの宿場街の面影を残す歴史地区や草津市の中心市街地、田園部をまたいで琵琶湖へとつながる広大なオープンスペースとなっています。様々なエリアをつらぬくこの広大な未利用地を活用することは、都市機能に大きな影響を与える可能性を有しています。

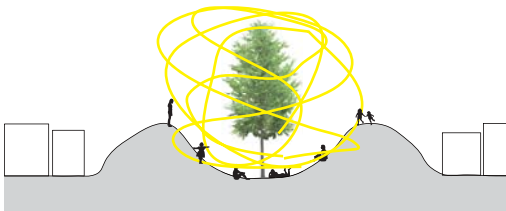
■Concept・Diagram

現在広大な空き地として存在する旧草津川を市街地の中の憩いの場及び文化施設、生活の基点として再編します。

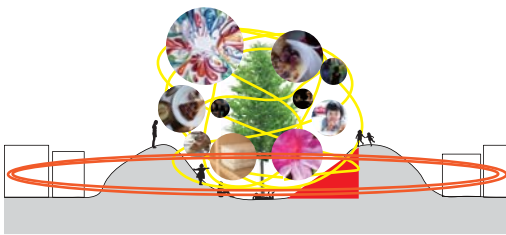
市街地を東西に横断する旧草津川内部は高い堤防により市街地と切り離されて、別世界性を有しています。



この堤防により形成される空間を生かしながら、堤防内に屋外植物園や緑地帯、公園、広場といった機能を配置します。このことにより、市街地の中に広大に伸びる、別世界性を持った憩いとアクティビティの場を作ります。

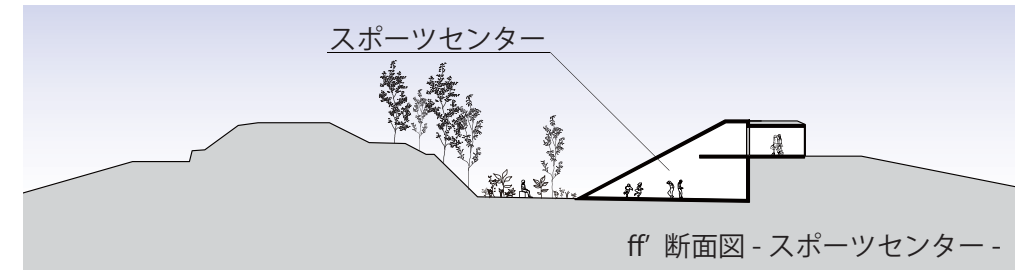
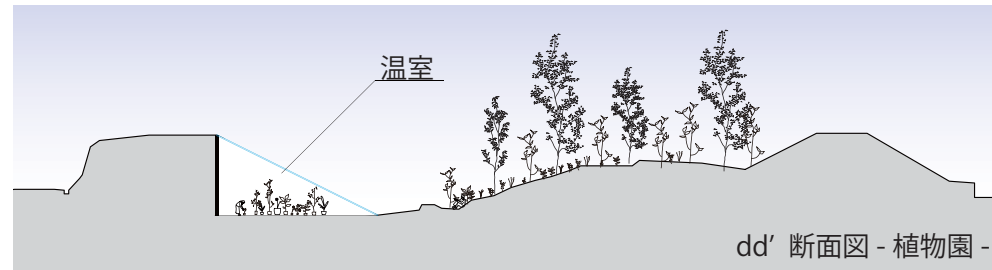
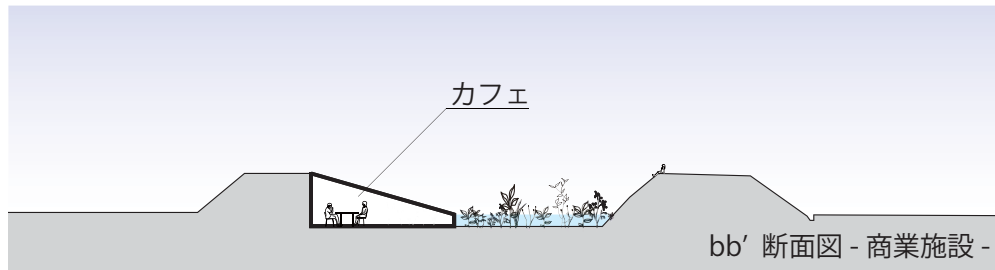
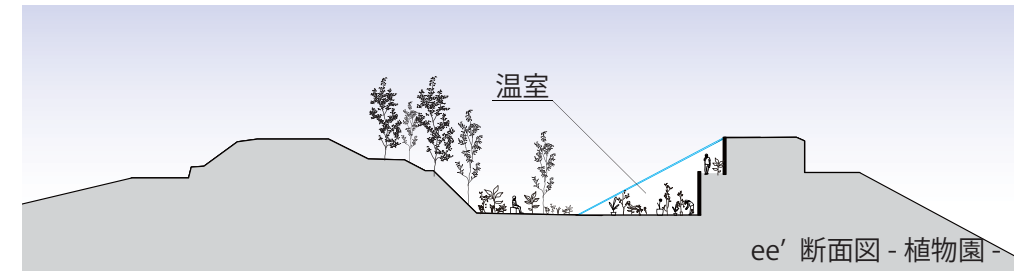
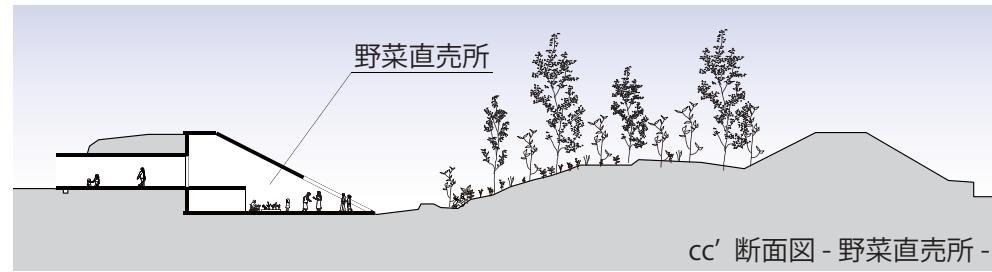
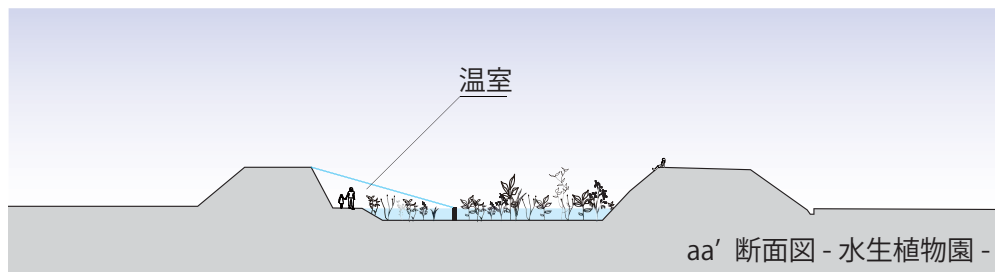


さらに、隣接建物や各エリアの特徴に合わせた用途の建物を分散配置し、堤防内空間の充実化とともに、堤防外の市街地との関係性を作り、相互作用を促します。各施設は、既存堤防によって形成されている空間を生かすために、施設を堤防に差し込むように設計します。

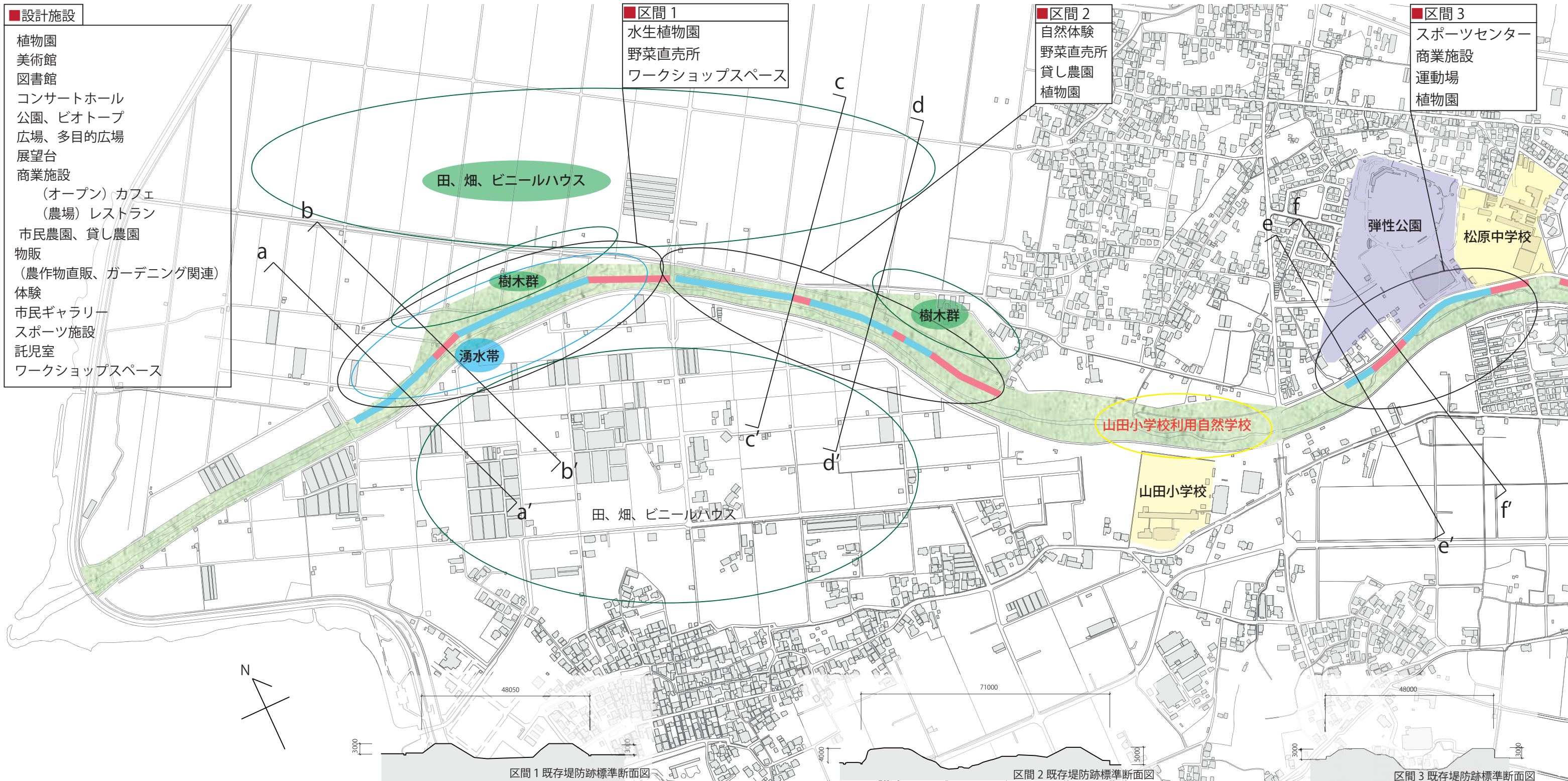


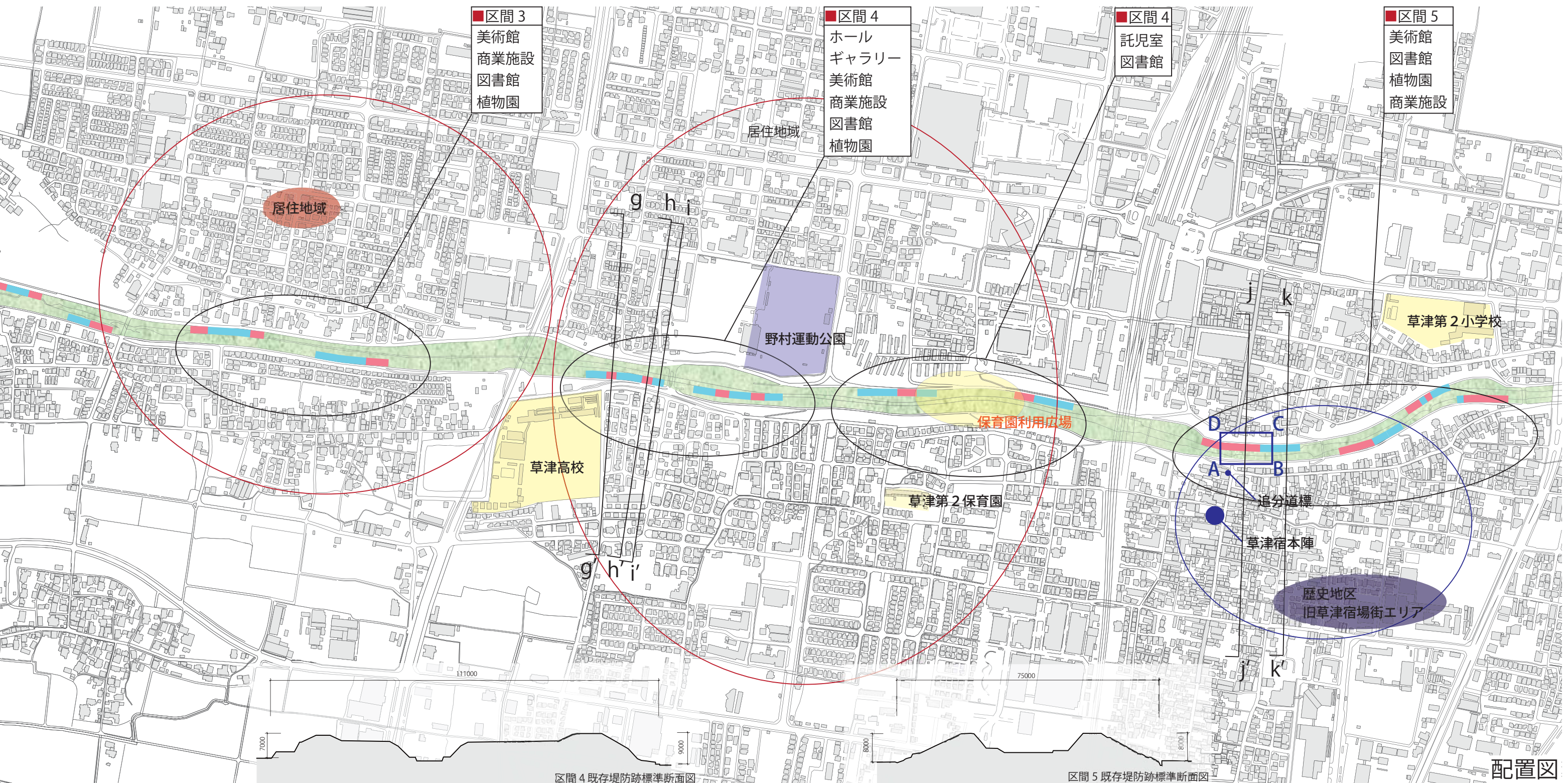
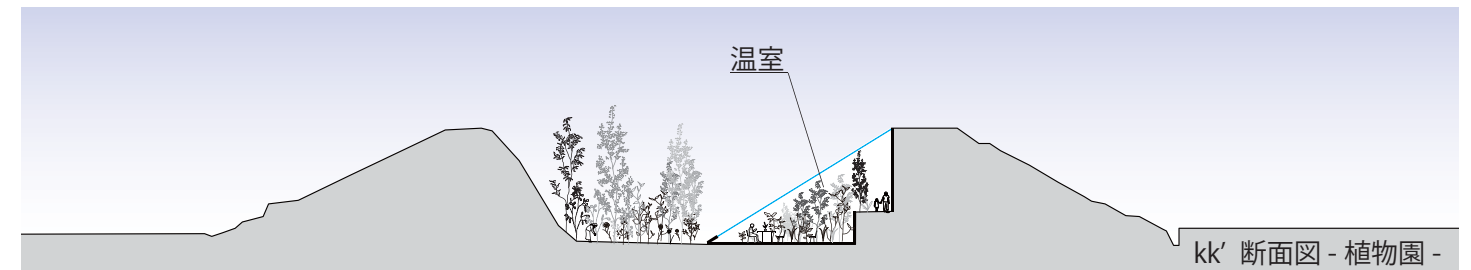
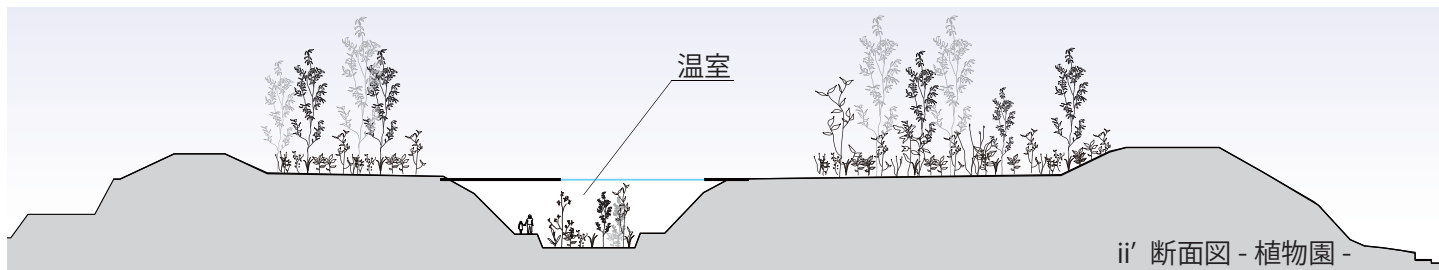
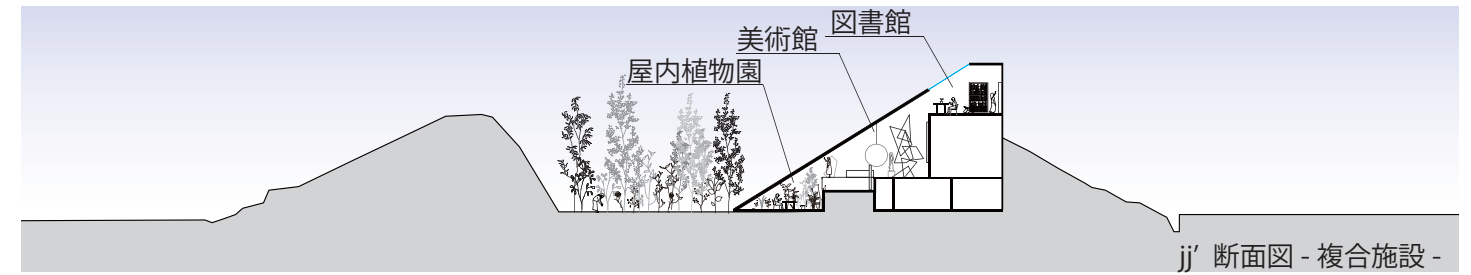
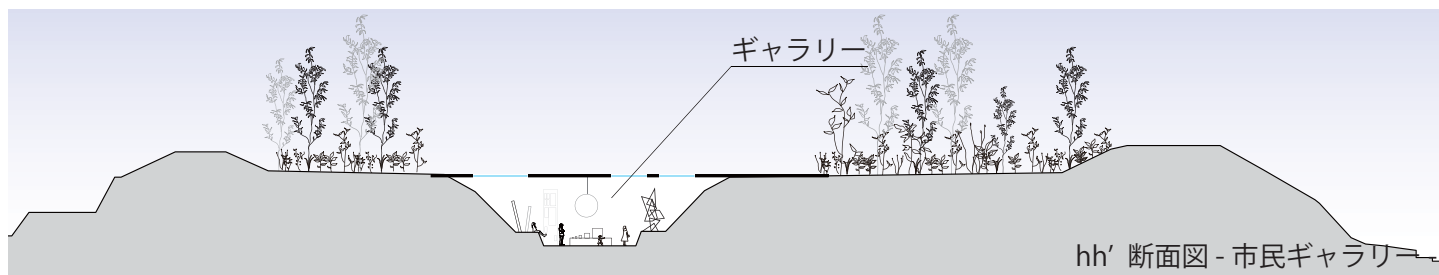
これらのことにより文化的価値のある旧草津川を後世に残すとともに、憩いの場及び文化や生活の基点としての新たな価値を付加し、都市全体の機能強化を図ります。

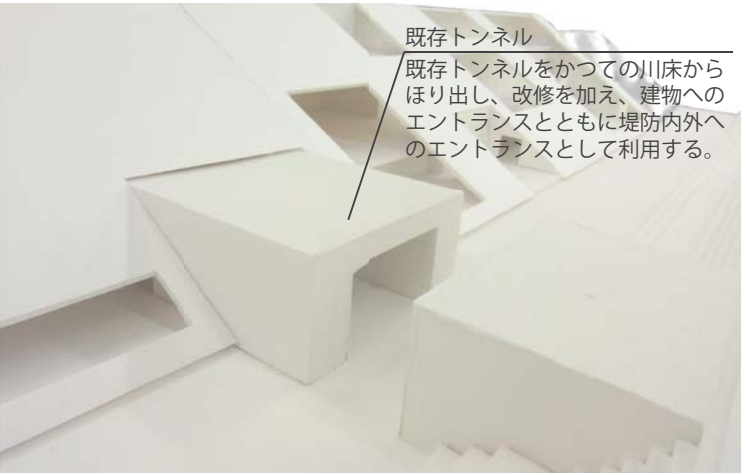
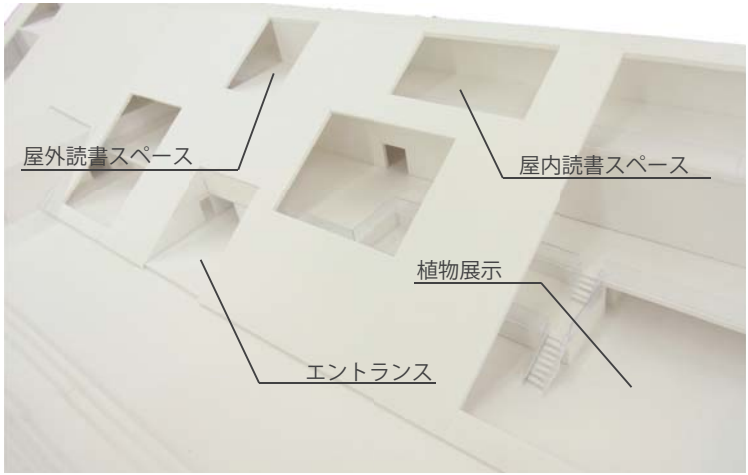
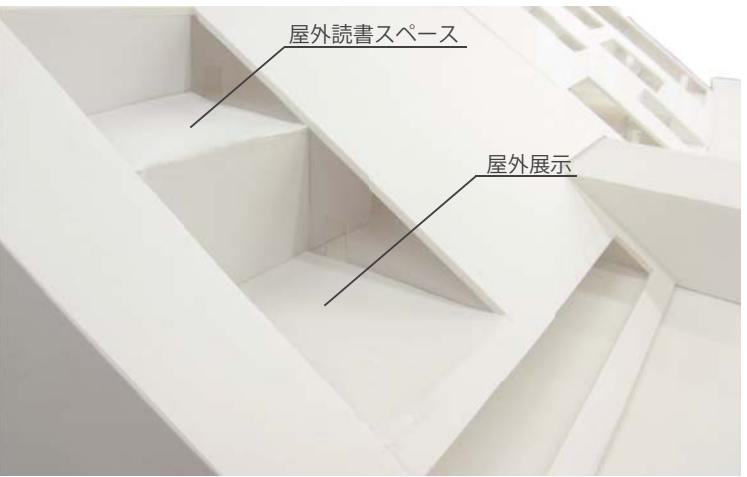
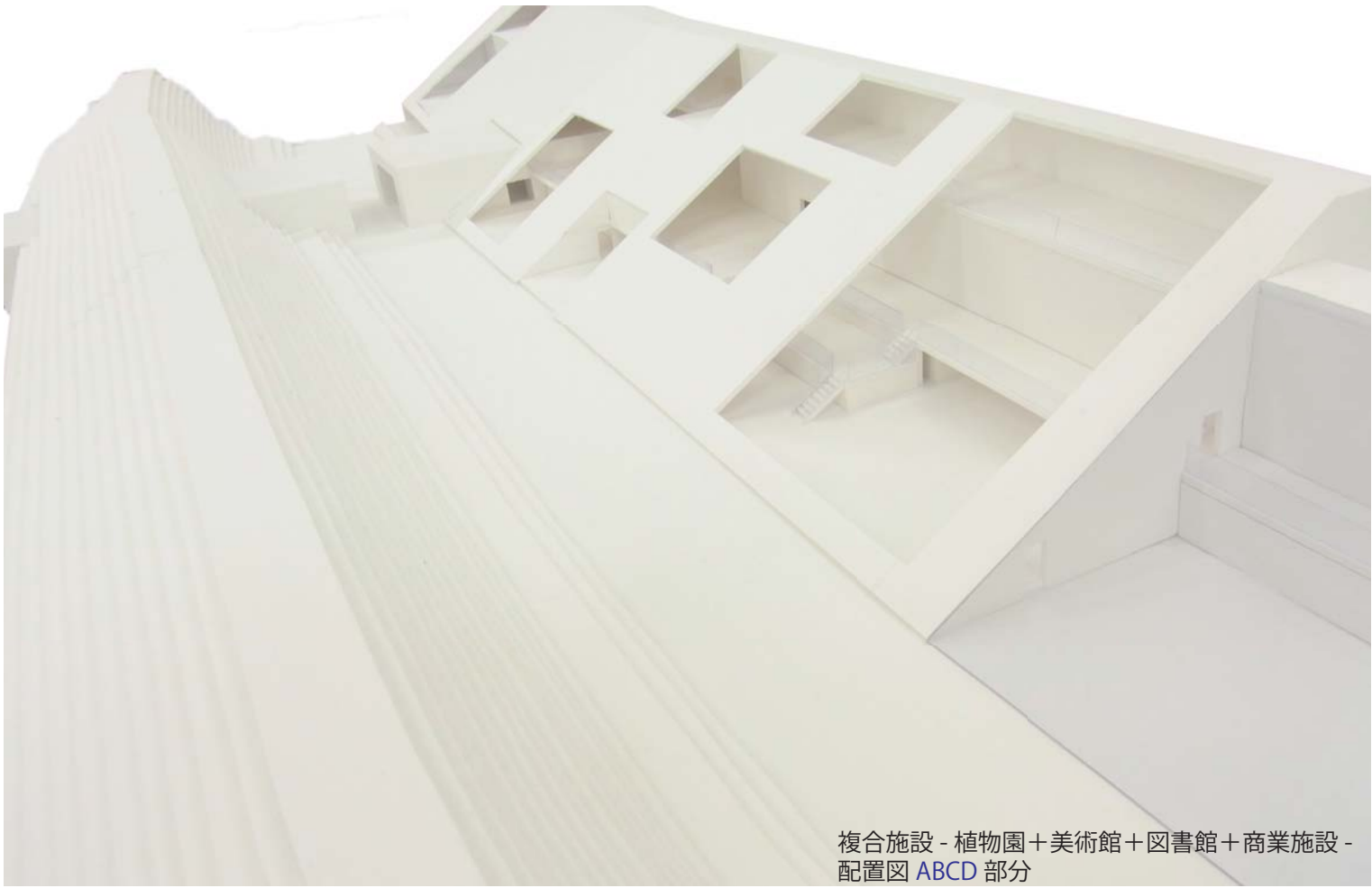




- 設計施設
- 植物園
 - 美術館
 - 図書館
 - コンサートホール
 - 公園、ビオトープ
 - 広場、多目的広場
 - 展望台
 - 商業施設
 - (オープン) カフェ
 - (農場) レストラン
 - 市民農園、貸し農園
 - 物販
 - (農作物直販、ガーデニング関連)
 - 体験
 - 市民ギャラリー
 - スポーツ施設
 - 託児室
 - ワークショップスペース







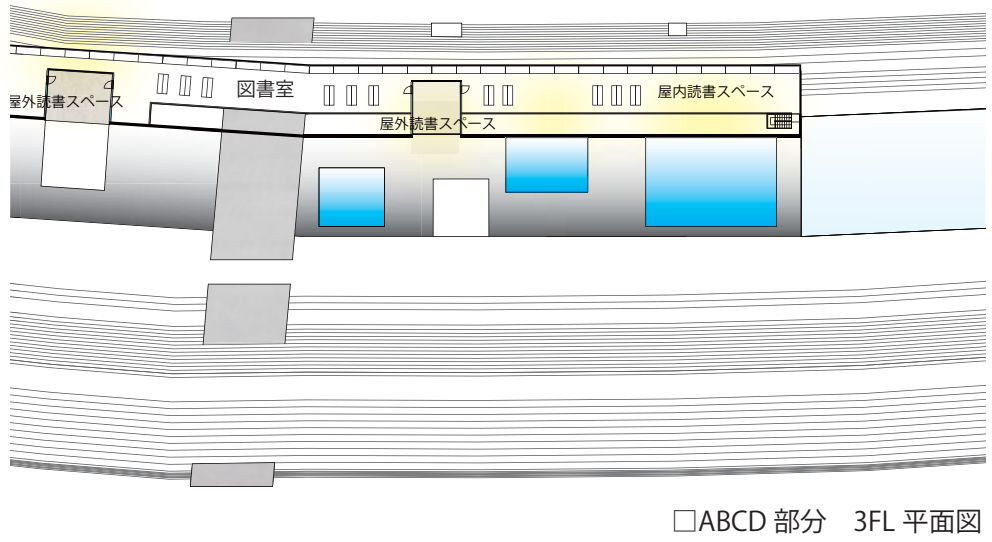
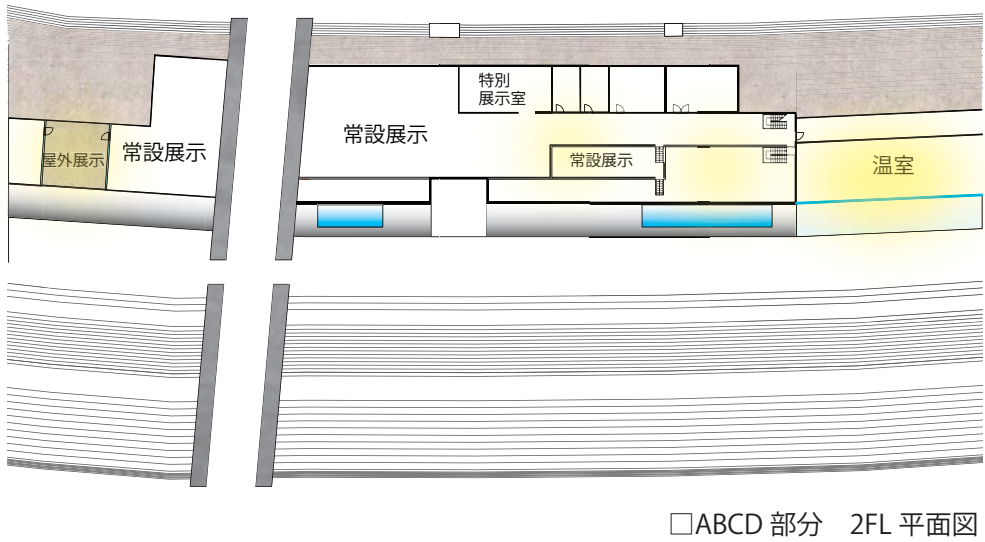
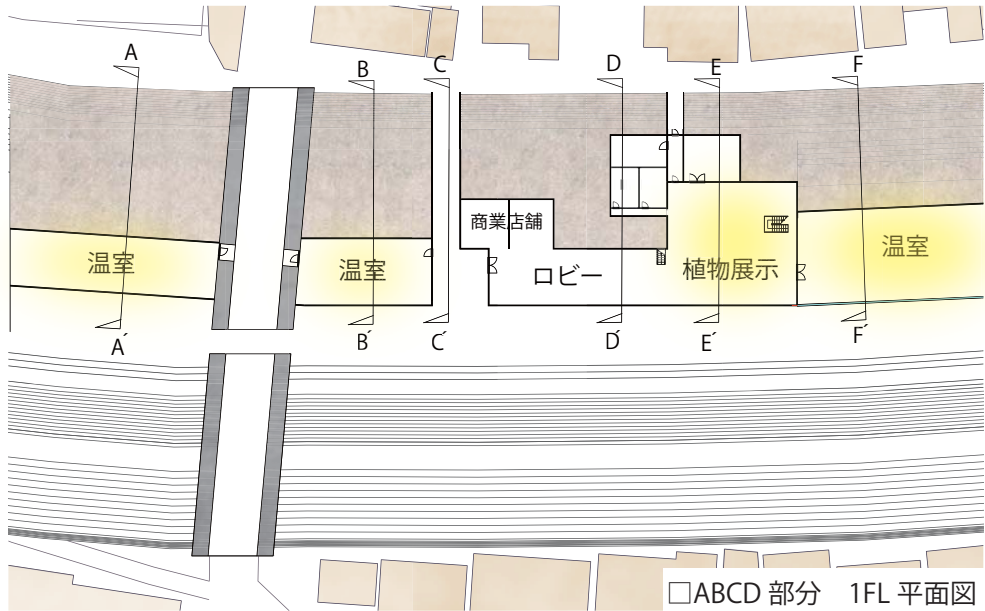
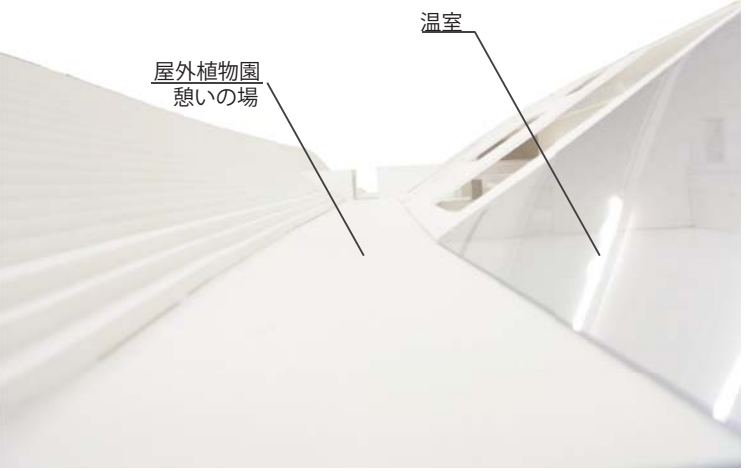
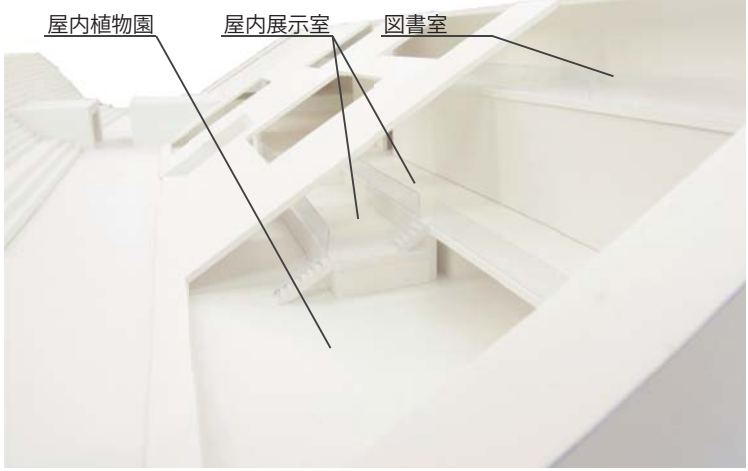
デザインルール

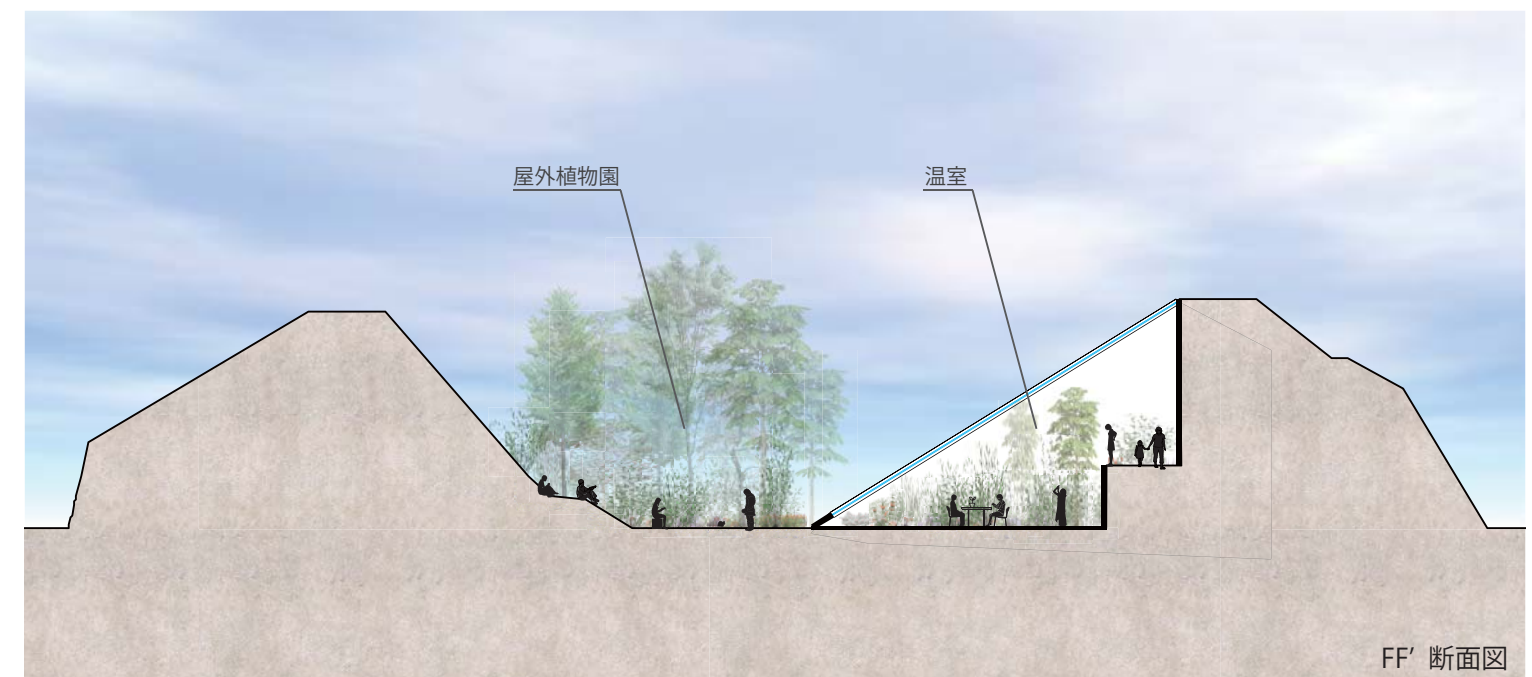
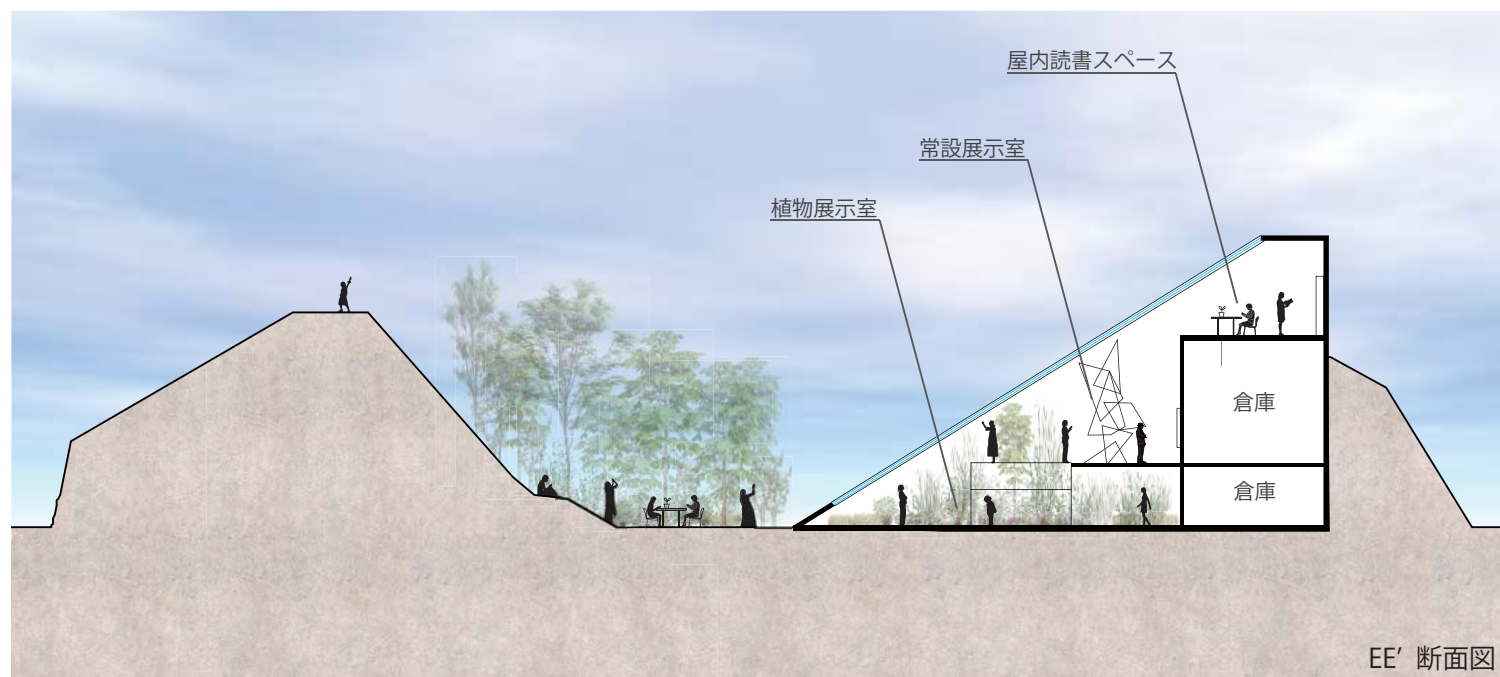
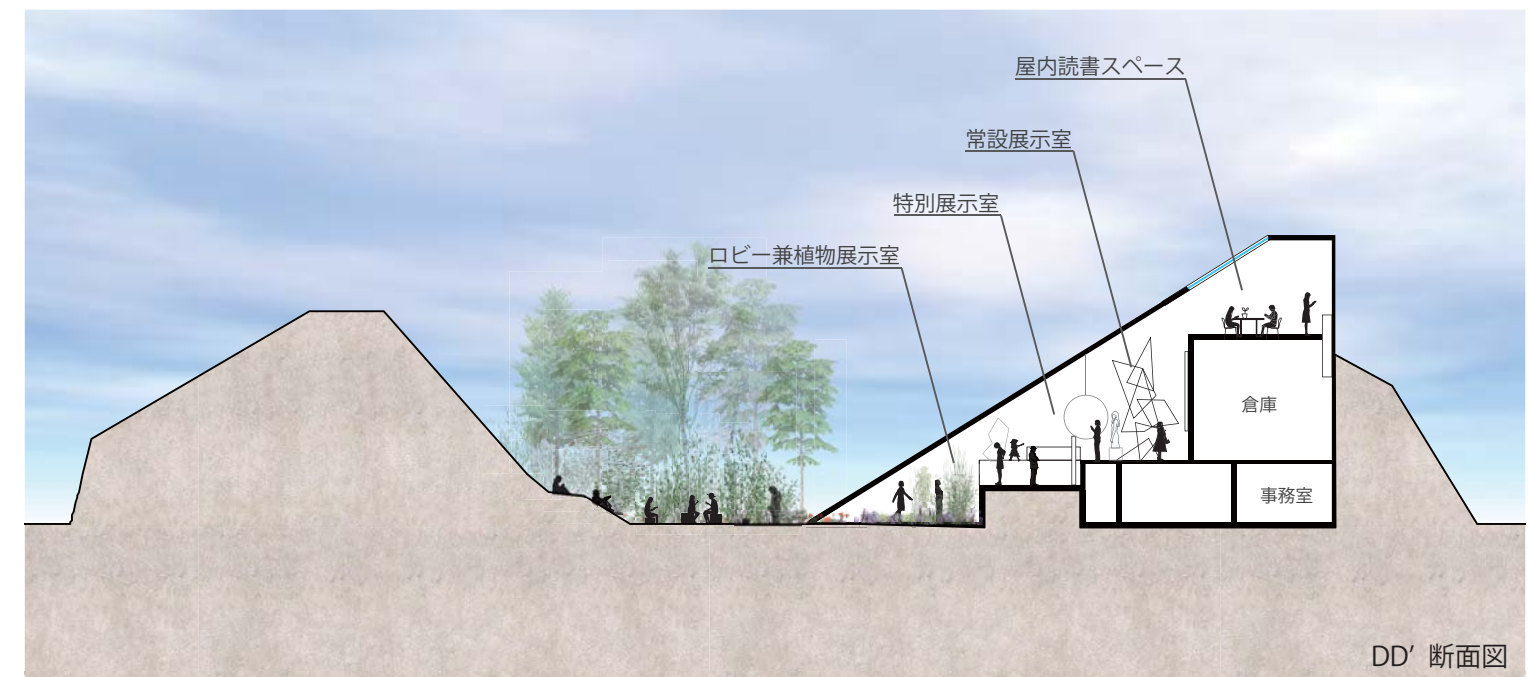
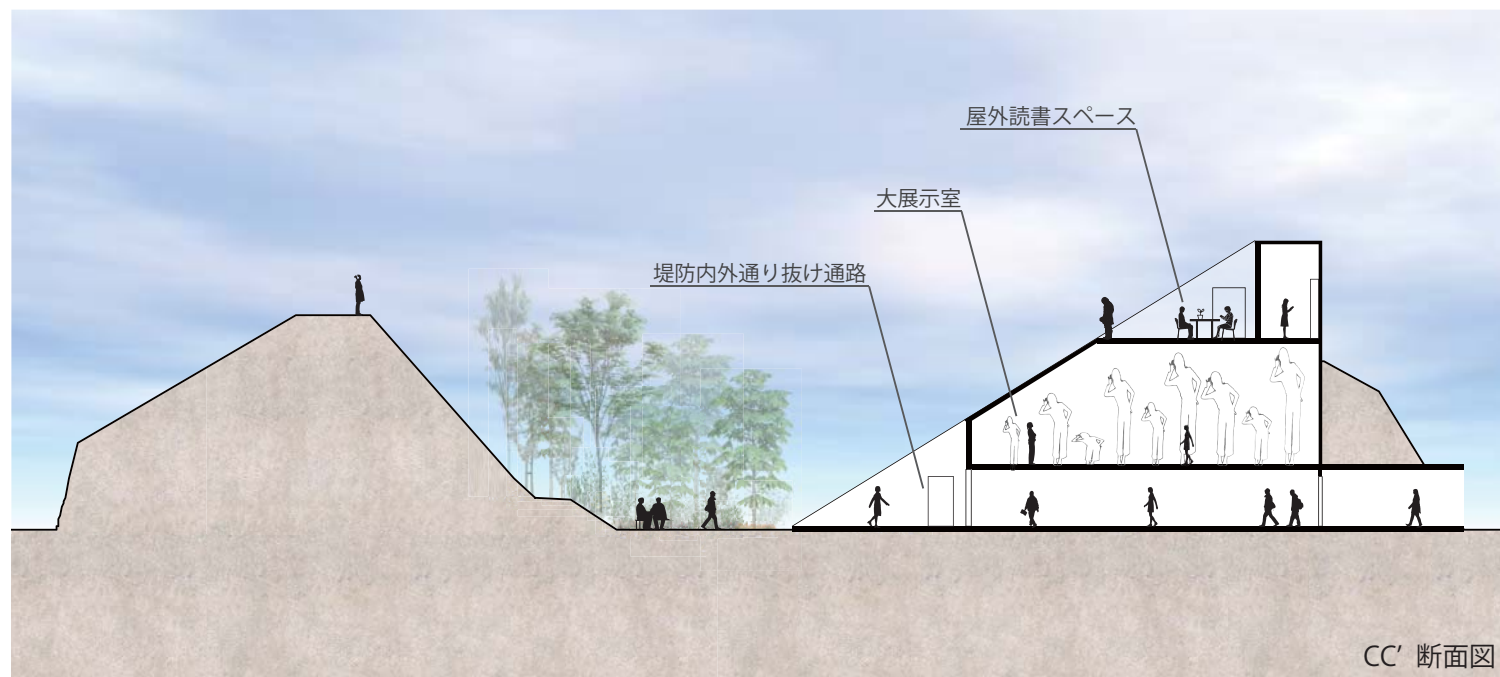
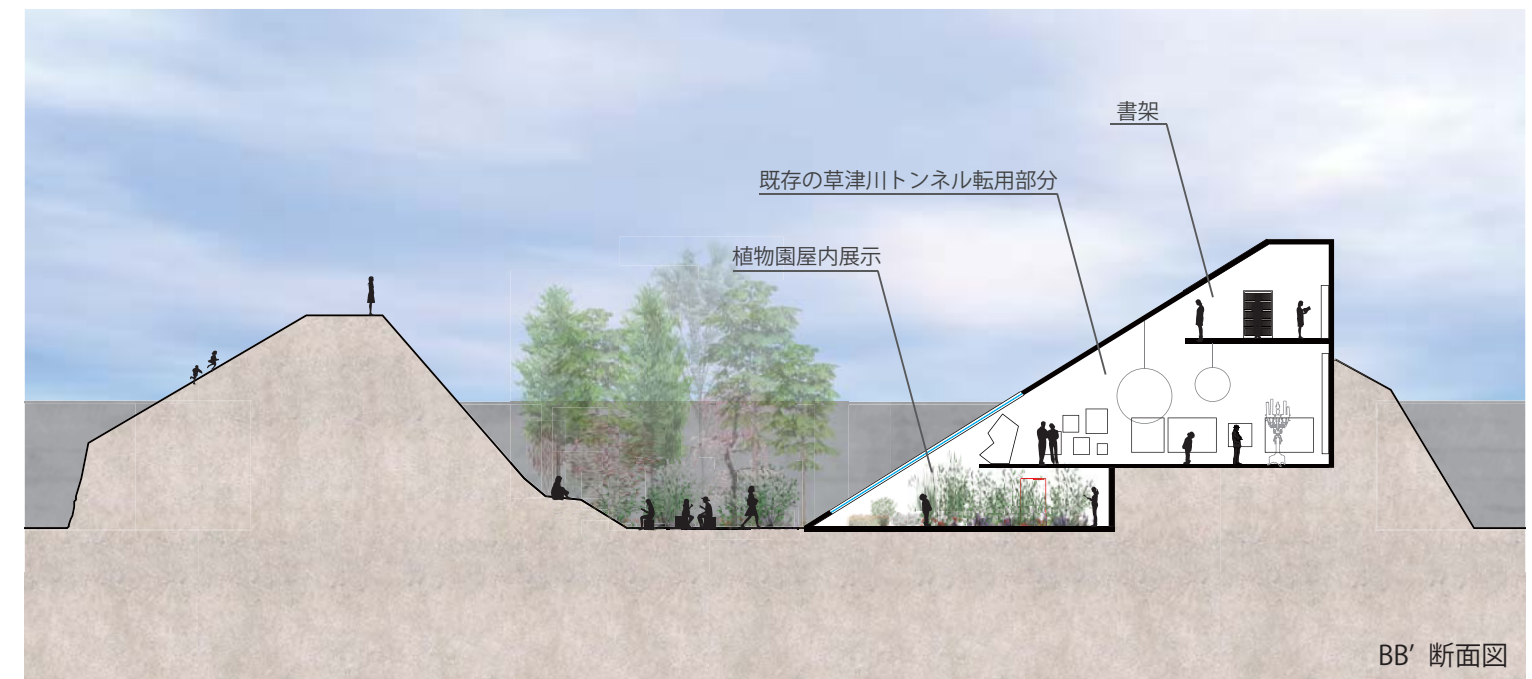
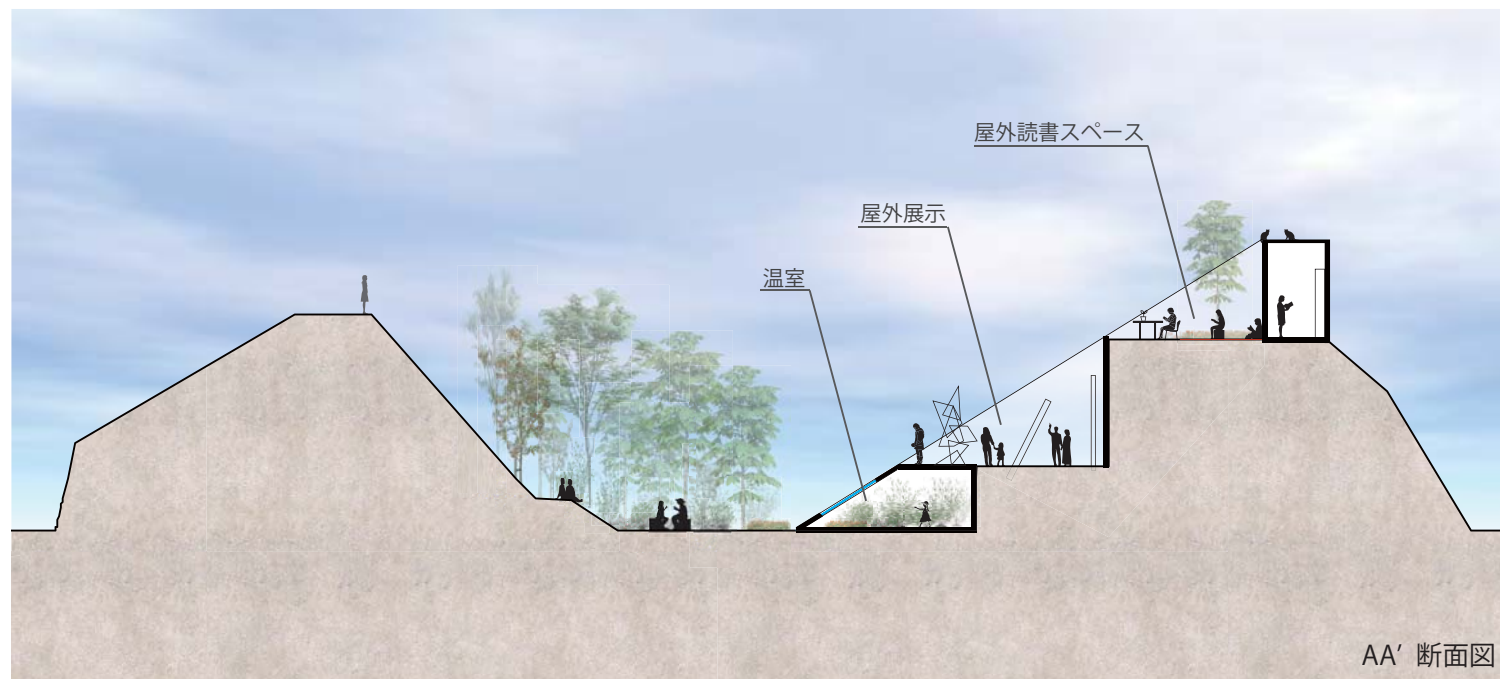
・開口部を多数設けることにより、堤防内外空間と設計建物内部に視覚的連続性を持たせ、堤防内外空間と施設内の活動が互いに視認できる関係性にしています。このことにより堤防内外空間と施設内部空間に一体感を与えるとともに、利用者に新たな活動を促進するように計画しています。

・美術館部門や商業部門などの部門配置は、特徴的な堤防形状を利用して、視覚的連続性をもたせながら、レベル差によってゾーニングしています。このことにより、各空間は部門ごとに明確に分節されながらも、異なるプログラムが関係性を持ちながら配置されます。

・天井スラブに多数設けた開口部は、部門内各機能の分節にも利用します。他室と機能的な連続性を持つとともに開放的な一体空間とすることが効果的な部分については、天井スラブから差し込む光を利用して、やわらかくゾーニングしており、図書館部門では、開口部下を読書スペースとし、スラブ下を書架スペースとしています。

これらの操作によって、施設内外両方を含む堤防内に一体感を与え、堤防全体がより効果的に機能するようにデザインしました。





視点特別賞

本提案は、リノベーションによる地域資源の発掘をテーマとした下記「リノベーションアイデアコンペ2015」への出展作品です。当コンペでは、一次審査（書類審査）通過後、2次審査として公開プレゼンテーションを行い、視点特別賞を受賞しました。その際、現実的な有効性や「リノベーション」という言葉を拡大解釈し、残存する土木構造物を含む河川跡をリノベーション対象として選定した妙、近似する様々な敷地条件に対しても展開可能な汎用性の高さを特に評価されました。

■コンペ概要

名称:「リノベーションアイデアコンペ2015」

当年課題:フロム・ローカル

主催:リノベーション住宅推進協議会

一次審査 日時:2015年9月7日(月)(書類提出期限)

審査方式:提出プレゼン図書審査

二次審査 日時:2015年10月31日(土)

場所:横浜市「BUKATSUDO」

審査方式:公開プレゼンテーション審査

■課題

「フロム・ローカル」

最近、ローカルがおもしろい。

ローカル。といっても必ずしも「地方」を意味する訳ではない。ここで言うローカルとは、僕らが歩いて回れる範囲、いわゆるスモールエリアを指す。(中略)毎日の暮らしの中で、すぐ足元にあるものは中々見えにくい。けれど、ちょっと視点を変えるだけで、とたんに魅力的に見えてくることがある。伝え方を変えるだけで、突然共感が連鎖し始めることがある。最近元気がない「中心市街地」にも、シャッター通り化した「商店街」にも、空き家が目立つ「住宅地」にも、まだ発見されていない、磨けば光る宝物が眠っているハズだ。なんとなく使われていない公園や道路の「公共空間」だって、本当はみんながもっと楽しめる使い方があるに違いない。僕らのローカルに眠る地域資源を発掘し、リノベーションによって魅力を高め、伝播させていく。今回のリノベーション・アイデア・コンペでは、ローカルから発想したアイデアを募集する。

(当コンペ課題文より一部抜粋)

■審査員

① 吉里裕也(東京R不動産 代表ディレクター)

② 相馬夕輝(D&DEPARTMENT PROJECT 代表取締役社長)

③ 木下斉(エリア・イノベーション・アライアンス代表理事)

④ 馬場末織(南房総リパブリック 理事長)

⑤ 余川創(ローカルプロデューサー)

⑥ 原田麻魚(建築家/MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO 代表取締役)

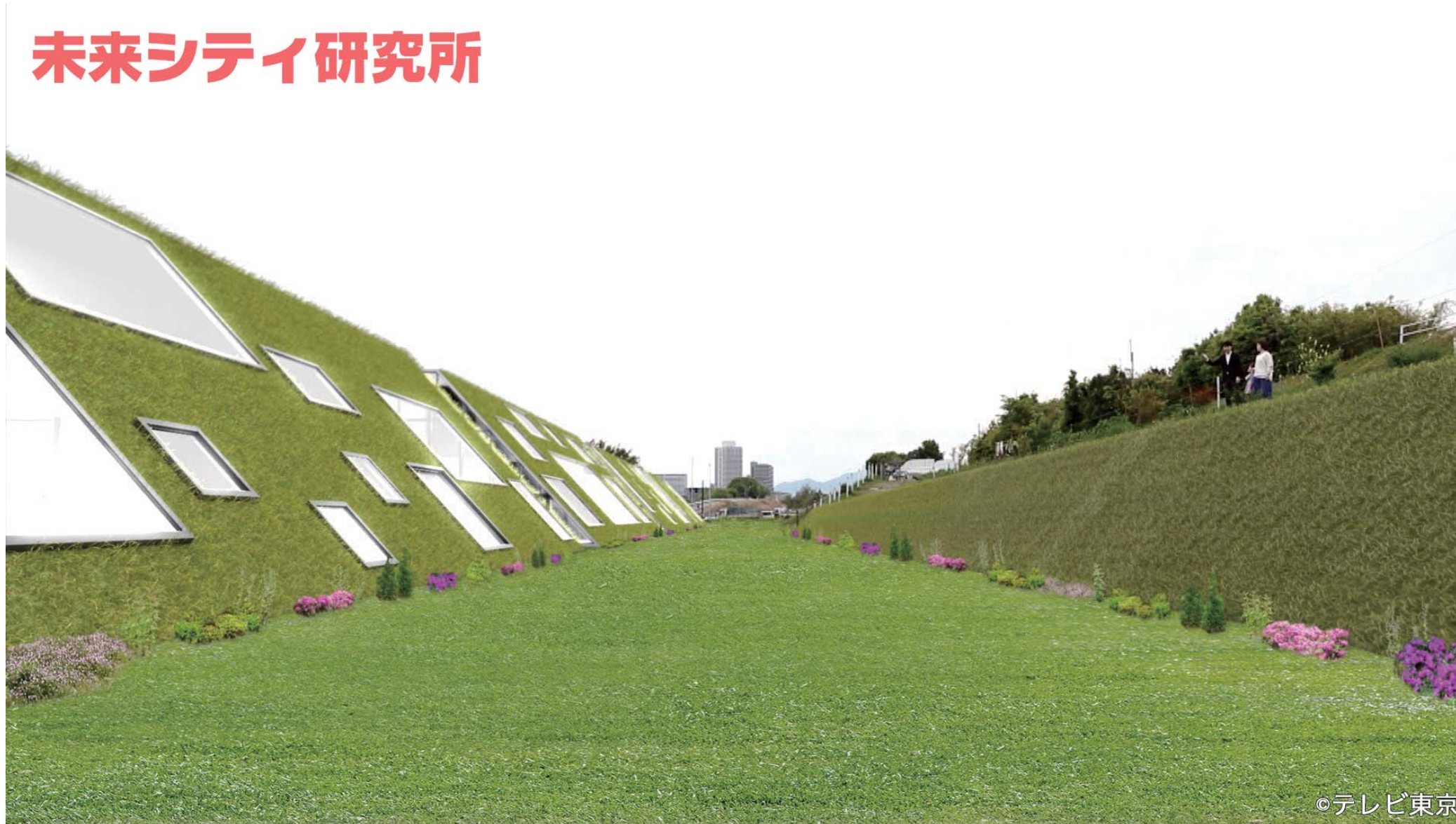
⑦ 内山博文(リノベーション住宅推進協議会 会長)



テレビ放送 「未来シティ研究所」

「リノベーションアイデアコンペ 2015」での受賞を、テレビ東京の方が見つけて下さり、テレビ東京の制作番組である「未来シティ研究所」で、当構想が放送されました。(2016年5月16日) 現在でも番組ホームページや youtube にて過去放送映像が放送されています。 →番組ホームページバックナンバー記載タイトル：#83 「河川跡地リノベーション」

未来シティ研究所



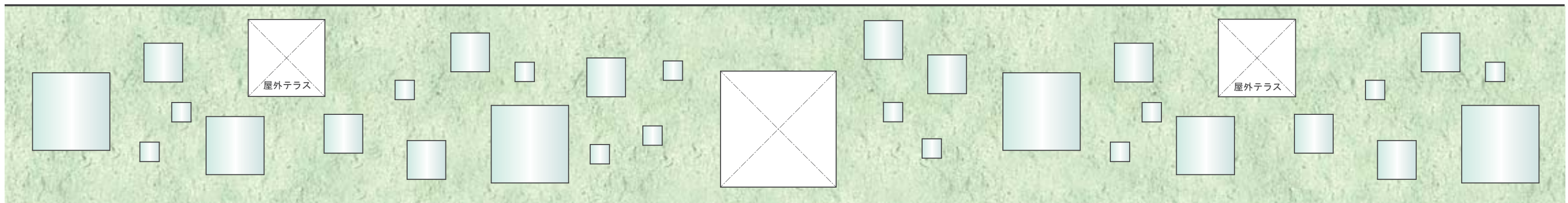
©テレビ東京
託児室部分 堤防内より外観イメージ



©テレビ東京
託児室部分開口部廻りイメージ



©テレビ東京
通り抜け通路部分イメージ

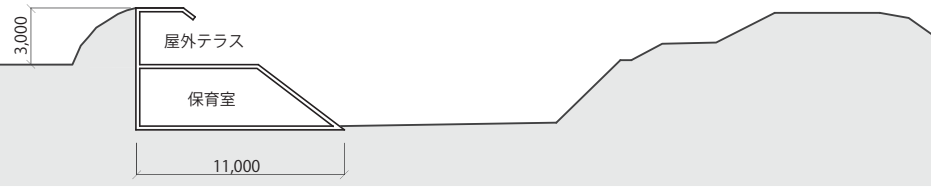
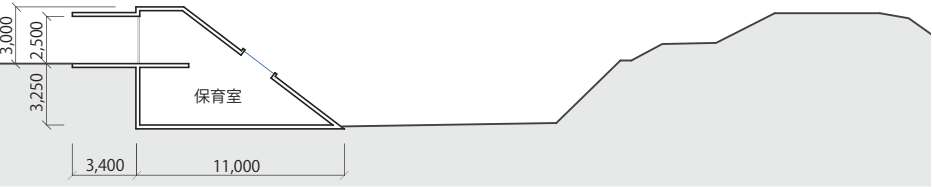


託児室 斜め屋根開口パターン図
(※斜め屋根に対して水平投影)

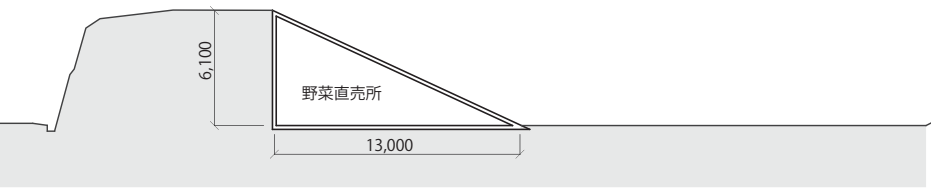
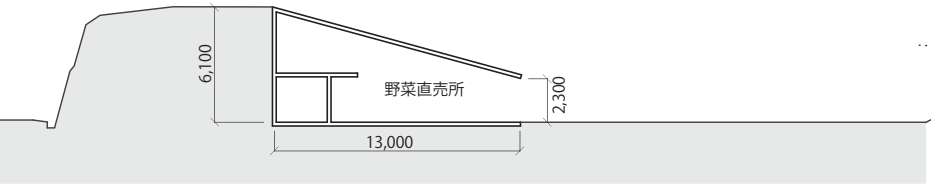


放送箇所

約 7km に及び河川跡地には、各地域に応じた施設を配置することで、都市機能の強化を図っています。例えば、周辺に住宅が立ち並ぶ居住地域には、商業施設や文化施設、保育園といった施設を配置することで生活機能を強化します。周辺に田や畑、ビニールハウスが立ち並ぶ田園部には野菜直売所や自然体験施設といった周辺施設との連携を意図した施設を配置しています。当放送では、特に、保育園と野菜直売所に焦点を当てて紹介して頂きました。



保育園廻り 断面イメージ



野菜直売所廻り 断面イメージ

